二　関係者近詠

ありたけの好きな讃美歌秋の葬　眞希子
海桐の実テトラポッドの呼ぶ芥　仝
高校生へ受洗の諮問天高し　仝
新涼や計量しかと新料理　仝
忘母代りの姉も生徒で運動会　仝
湯の街の坂登り来る鬼やんま　弘子
処暑の雨ひと雨ごとに山痩せて　仝
珈琲豆買ひたる夕べ草雲雀　仝
軍艦が車窓の端に秋曇　仝
今日もまたかくてのけふか月の暈　青史
敬老の日や妻の上誰も触れず　仝
このうつつゆめであらばやましら酒　仝
できばえは土にまかせて大根蒔く　仝

―「森の座」12月号

「翠黛の渓」川口襄　（三田俳句丘の会）
（「丘の風」No.28、2018/11）

空一枚海一枚の初明り
蜘蛛の囲に月の雫の捕へらる
蛇皮を脱ぎていまだに爬虫類
翠黛の渓へ斬り込む夏つばめ
たそがれの街影絵めく蚊食鳥
岩礁は波の語部星月夜
山宿の秋を炊き込む自在鉤
噴煙を染むる落陽島の秋
朝影の綿虫の群れ舞ふは舞ふは
吊革にひとりひとりの年の暮

暮の秋神田に多きカレー店　正明
あちこちに監視カメラや林檎園　仝
雪の富士関東平野の果てに泛く　允章
滝風に煌めき舞へる冬紅葉（袋田の滝）　仝
山峡の村静もりて枇杷の花　仝

❄　❄　❄

三　河東節仲間の中臺誠一さん（伊藤若冲の画や歌川国芳・河鍋暁齋の戯画等ｂ収集家、清元節の大家）手造りの句集「さんもく集」2017年より勝手乍ら抜粋

常の日の舌法楽の蒸鰈　安居院敏子
潮の香のここに涼しき椅子のあり　荒木悦子
矢切野を頒つ一線夏の河　桂南なん
残暑厳し畳の縁でつんのめり　中臺誠一
九十四歳つねのごとくに寒卵　仝
二丁櫓の軋み春立つ日なりけり　仝
　子規庵にて
三月のへちまの棚のがらんどう　仝
―　下鉢清子（俳人協会名誉会長）
（繪硝子顧問）

残照の暗渠にみかんひとつ浮き
むず痒き背の辺りや羊歯萌ゆる
コスモスや笛で発車の只見線
ひと節の稽古百遍十三夜
河東節揃わぬ夜や秋の雨
新調の帯締めうたふ初復習（さらい）
正月やボブ・ディランの歌諳んずる

四　孤舟さん寄贈の「丘の風」No28より

「谷深へ」　西村和子

太郎に縁次郎に運を初参
読み初めの大冊割れば樂溢れ
初富士を詠みて師系に連ならむ
薪を抱く炎やはらか春暖炉
うち仰ぎ古稀のあしたの初桜

若布干す虫養ひにつまみつつ
谷深へしだれ桜の帳なす
遠足の点呼のたびに数ちがふ
湾深く白夜の月を宿したり
車窓過ぐ牧草穂麦針葉樹

以上　紀久男記

平成三十年年十二月十五日